



2022年第2四半期 決算説明会

株式会社ブリヂストン

2022年8月10日

BRIDGESTONE
Solutions for your journey

1. 2022年第2四半期累計 連結業績 …… 2
2. 2022年通期 連結業績予想 …… 13

1. 2022年第2四半期累計 連結業績

2022年第2四半期累計 連結業績

(単位：億円)

	2021年 第2四半期累計実績						2022年 [※] 第2四半期 累計実績	前年比増減 (%)
	組替前 (昨年開示数値)	組替後 [※]	第1四半期	前年比増減 (%)	第2四半期	前年比増減 (%)		
売上収益	15,688	15,104	8,910	+23	9,953	+27	18,863	+25
調整後営業利益	1,762	1,824	1,011	+19	1,055	+8	2,066	+13
利益率	11.2%	12.1%	11.3%	△ 0.3pp	10.6%	△ 1.9pp	11.0%	△ 1.1pp
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	3,523	3,523	538	△ 81	391	△ 42	929	△ 74
-うち継続事業	1,236	1,313	654	+3	522	△ 23	1,176	△ 10
-うち非継続事業	2,287	2,210	△ 116	-	△ 131	-	△ 247	-

※ 2021年第2四半期では米国建築資材事業を「非継続事業」に分類しておりましたが、2021年12月発表の事業譲渡の決定に伴い、2021年第4四半期より新たに防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。これに伴い、売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額を表示しております。

2022年第2四半期累計 業績概要

第2四半期累計 ハイライト

- ロシア国内生産／ロシア向け輸出の停止、中国ロックダウン、米国子会社へのサイバー攻撃など、タイヤ販売への強い逆風となる経営リスクが顕在化する中、PS/LT, TB, ORの全ての財で前年を上回る販売を達成。円安の影響もあり、売上収益／調整後営業利益ともに前年同期比大幅な増収増益にて着地。
- 未曾有の原材料高騰に対応して、各地域における「戦略的価格マネジメント」「プレミアムビジネス戦略」を一層強化し、売値と販売Mix改善により原材料コストのマイナス影響を全て吸収。一方で、エネルギー費・労務費・海上運賃など、一段と加速したインフレ影響を全てカバーするまでには至らず。
- 世界各地でサプライチェーンの混乱が継続する中、グローバル生産体制を基盤としたフレキシブルな供給マネジメントによりプレミアムタイヤの供給を最大化。断トツ商品力も大きく寄与し、プレミアム領域における販売シェアを拡大。
- 生産現場改善やグローバル調達プロジェクトなどの「経費・コスト構造改革」が収益性を下支えし、ロシア国内生産／ロシア向け輸出の停止、中国ロックダウン、米国子会社でのサイバー攻撃などによる減益影響がある中でも、上期累計で11%レベルの調整後営業利益率を維持。

第2四半期累計 財別販売概況

PS/LT
(乗用車/ライトトラック用)

- プレミアムタイヤ(高インチタイヤ)を中心に販売拡大 – 上期累計 PSR-HRD (18インチ以上) 市販用販売は対前年117%と大きく伸長。
- 市販用：1Q/2Qを通して米欧での販売が堅調に推移。特にプレミアムタイヤ(HRD)需要が強く拡大する中、販売シェアも上昇。
- 新車用：半導体影響での自動車各社の減産が継続し、対前年でタイヤ販売減少。

TB
(トラック・バス用)

- 市販用：堅調な販売が継続。特に欧州・日本では値上げ前駆け込み影響もあり、上期累計で対前年20%以上の大幅販売増。
- 新車用：2Qに入り米欧で半導体影響からの需要回復の動きが見られ、上期累計で前年を上回る販売を確保。

OR
(鉱山用、建設用)

- 鉱山用：ロシア向け輸出停止による販売減を他市場でカバーし、上期累計でグローバルでの販売シェアが上昇。
- 建設用：新車用はサプライチェーン混乱による建機減産影響を一部受けるも、市販用は堅調に推移。

2022年第2四半期累計 事業環境 / タイヤ需要



為替

- USD、EURともに前年比円安で推移。

上期累計：1USD=123円、1EUR=134円（2Q：1USD=130円、1EUR=138円）

（参考）21年上期累計 1USD=108円、1EUR=130円



原材料 / エネルギー

- 原材料：天然ゴムは概ね前年同期並み、原油は2月に\$100/bblを突破後も高値水準が継続。
- エネルギー：原油、天然ガス高騰に伴い、工場におけるエネルギー費が大幅に上昇。



タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：自動車減産の影響が継続も、北米で前年を上回るなど、需要回復の兆しも見える。
- 市販用：先進国需要堅調。北米需要の拡大に若干鈍化は見られるものの好調が継続、特にTBの強さ際立つ（19年比139%）。PS/LTでは、プレミアムタイヤ需要が着実に拡大している。

相場動向（平均価格）推移

※1 Source: Singapore Commodity Exchange Limited 期近市況価格

	2021年				2022年	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
天然ゴム (TSR20)※1 (¢/kg)	167	165	166	173	177	165
天然ゴム (RSS#3)※1 (¢/kg)	234	221	185	193	210	211
原油 (WTI) (\$/bbl)	58	66	71	77	95	109

2022年1-6月 タイヤ需要（本数 対前年/対19年）

当社推定値	PS/LT (乗用車/ライトトラック用)				TB (トラック・バス用)			
	OE(新車用)		REP(市販用)		OE(新車用)		REP(市販用)	
	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年
日本	85%	72%	110%	105%	82%	88%	121%	114%
北米	105%	85%	102%	109%	107%	91%	108%	139%
欧州	94%	78%	113%	109%	99%	94%	111%	120%

2022年第2四半期累計 タイヤ販売本数：対前年 / 対19年



PSR/LTR

	対前年	対19年
グローバル	102%	92%
OE (新車用)		
グローバル	95%	78%
日本	89%	75%
北米	96%	78%
欧州	91%	73%
中国・アジア・大洋州	94%	78%

REP (市販用)

グローバル	107%	101%
日本	109%	103%
北米	105%	99%
欧州	115%	105%
中国・アジア・大洋州	97%	84%



TBR

	対前年	対19年
グローバル	104%	101%
OE (新車用)		
グローバル	102%	91%
日本	84%	93%
北米	102%	79%
欧州	114%	106%
中国・アジア・大洋州	97%	116%

REP (市販用)

グローバル	106%	105%
日本	121%	110%
北米	106%	124%
欧州	125%	128%
中国・アジア・大洋州	89%	80%



ORR

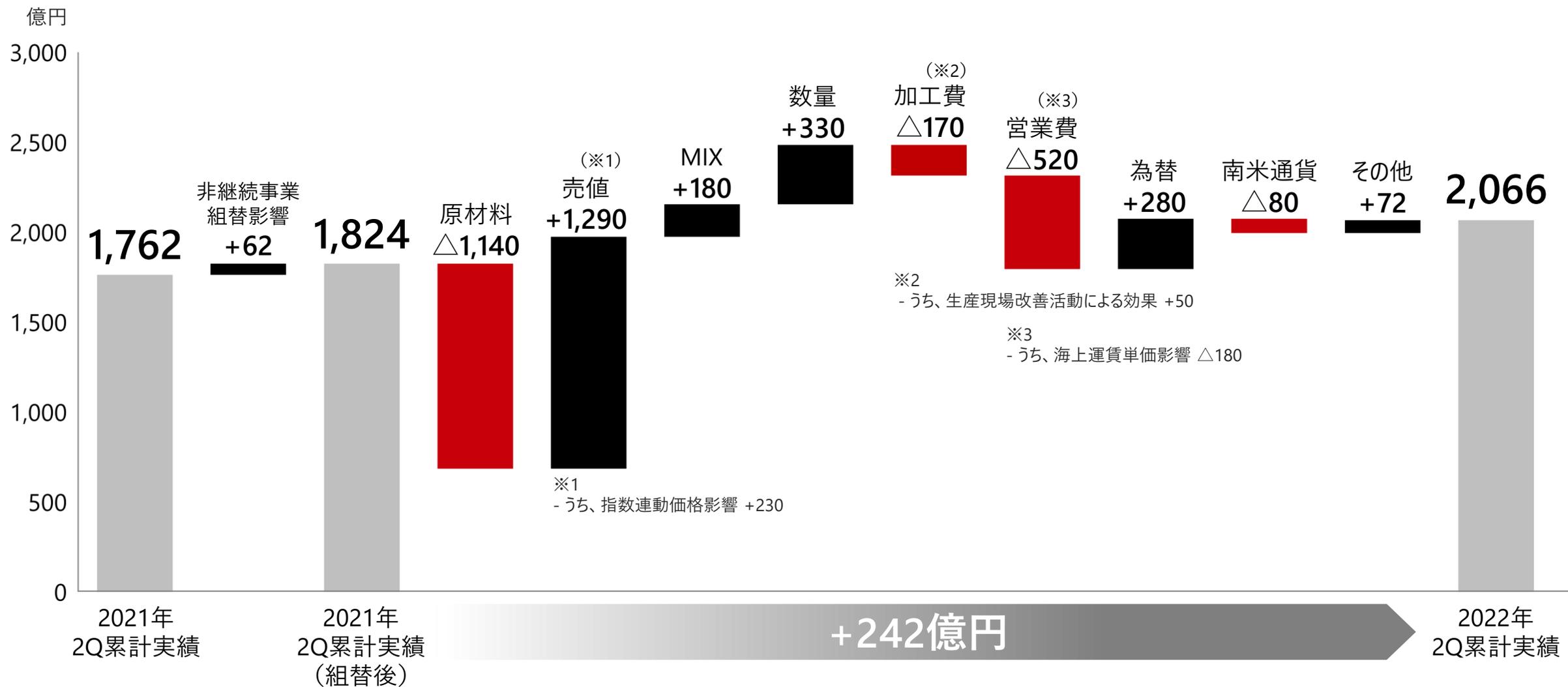
	対前年	対19年
超大型(REPのみ)	111%	100%
大型	111%	116%
OE	150%	136%
REP	99%	108%
中小型	103%	106%
OE	95%	99%
REP	109%	110%



PSR 18インチ以上

グローバル	107%	116%
REP	117%	144%

2022年第2四半期累計 調整後営業利益増減要因：前年差



2022年第2四半期累計 セグメント別業績

(単位：億円)

		2021年 第2四半期累計実績	2022年 第2四半期累計実績	前年比増減 (%)
連結	売上収益	15,104	18,863	+25
	日本	3,974	4,653	+17
	米州	6,698	8,911	+33
	欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	3,307	4,220	+28
	中国・アジア・大洋州	1,851	2,146	+16
連結	調整後営業利益	1,824	2,066	+13
	日本	429	523	+22
	米州	950	1,123	+18
	欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	163	390	+140
	中国・アジア・大洋州	229	177	△ 23

※ P.3に記載の通り、米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類し、組み替えた金額を表示しております。

2022年第2四半期累計 タイヤ事業 財別業績

(単位：億円)

		2021年 第2四半期累計実績	2022年 第2四半期累計実績	前年比増減 (%)
 PS/LT <small>※小売・クレジットカード事業を含む</small>	売上収益	7,894	10,048	+27
	調整後営業利益	1,121	1,191	+6
	利益率	14.2%	11.8%	△ 2.4pp
 TB <small>※リトレッド事業を含む</small>	売上収益	3,700	4,847	+31
	調整後営業利益	410	495	+21
	利益率	11.1%	10.2%	△ 0.9pp
 Specialties (OR/AC/AG/MC)	売上収益	1,912	2,566	+34
	調整後営業利益	362	605	+67
	利益率	18.9%	23.6%	+4.7pp

2022年第2四半期累計 化工品・多角化事業 事業別業績 (継続事業ベース)

化工品事業
売上収益 703億円
調整後営業利益 23億円
(利益率 3.2%)

化工品・多角化事業
売上収益 1,342億円
調整後営業利益 51億円
(利益率 3.8%)

スポーツ・サイクル事業
売上収益 387億円
調整後営業利益 12億円
(利益率 3.0%)

米州多角化事業 (空気バネ)
売上収益 234億円
調整後営業利益 11億円
(利益率 4.9%)

※ 事業譲渡の決定に伴い、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
売上収益、調整後営業利益は、同事業に関する収益・費用を除いた「継続事業」のみの金額となります。

2022年第2四半期 財政状態計算書及びキャッシュ・フローハイライト

(単位：億円)

	2021年期末実績	2022年第2四半期期末実績	対前年末
資産合計	45,749	50,095	+4,346
資本合計	26,754	30,046	+3,292
親会社所有者帰属持分比率	57.5%	59.0%	+1.5pp
有利子負債〈ネット〉	236	1,531	+1,295
期末為替レート	USDル 115円	137円	+22円
	ユーロ 131円	143円	+12円
	2021年第2四半期累計実績	2022年第2四半期累計実績	対前年同期
営業CF	1,154	948	△ 206
投資CF	2,660	△ 1,151	△ 3,811
フリーCF	3,814	△ 203	△ 4,017
設備投資	942	915	△ 28
減価償却費及び償却費	1,191	1,340	+149

2022年第2四半期累計「調整項目」及び「非継続事業からの四半期損失」について

2022年 第2四半期累計実績

(単位：億円)

売上収益	18,863
調整後営業利益	2,066
調整項目	326
営業利益	1,740
税引前四半期利益	1,802
継続事業からの四半期利益 ※	1,176
非継続事業からの四半期損失 ※	△ 247
親会社の所有者に帰属する四半期利益	929

※「親会社の所有者に帰属する四半期利益又は損失」を記載しております。

1) 調整項目

(単位：億円)

調整項目	326	主な内容
ロシア事業関連損失	168	固定資産減損、 棚卸資産評価減
ブリヂストンサイクル（株）安全点検費用	153	-
その他	5	

2) 非継続事業からの四半期損失

- 事業譲渡の決定に伴い、米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を「非継続事業」に分類しております。
- これにより、下記①、②の合計247億円を「非継続事業からの四半期損失」として計上しました。

① 事業譲渡に係る損失

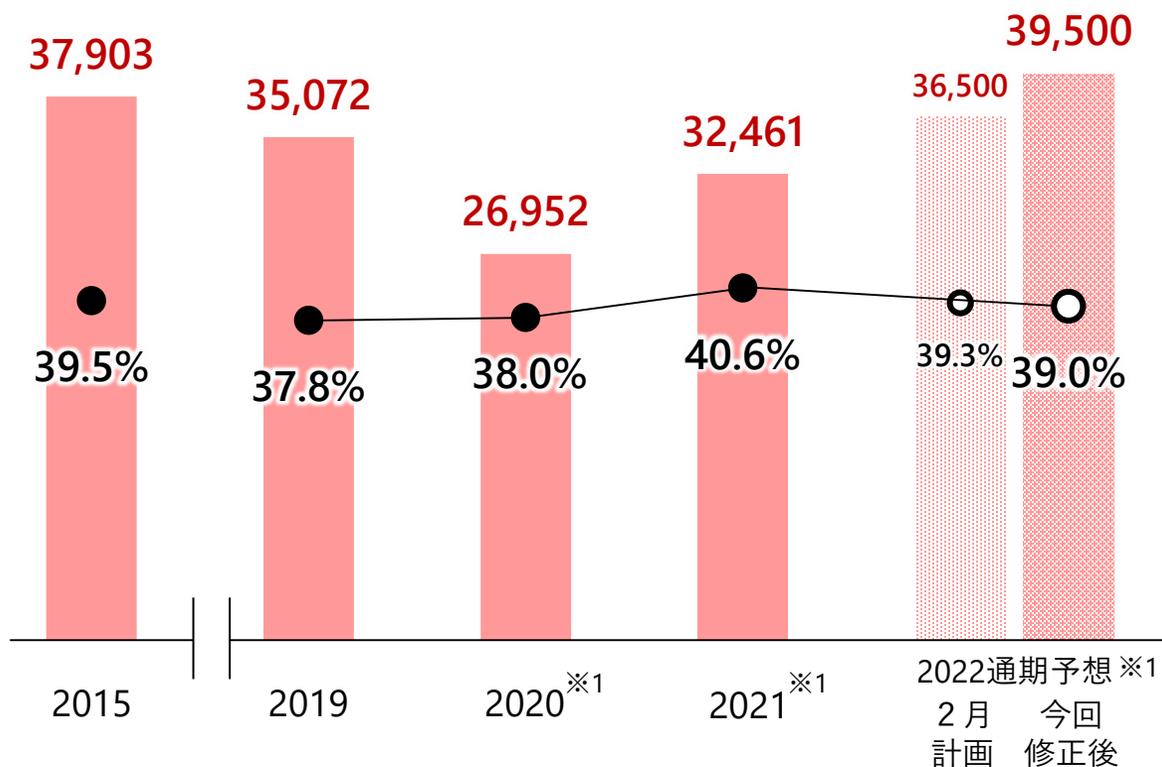
② 2022年第2四半期累計で同事業において計上した四半期損失

2. 2022年通期 連結業績予想

2022年通期 連結業績予想（今回修正後）

売上収益／粗利率

■ 売上収益[億円] — 粗利率[%]



日本会計基準

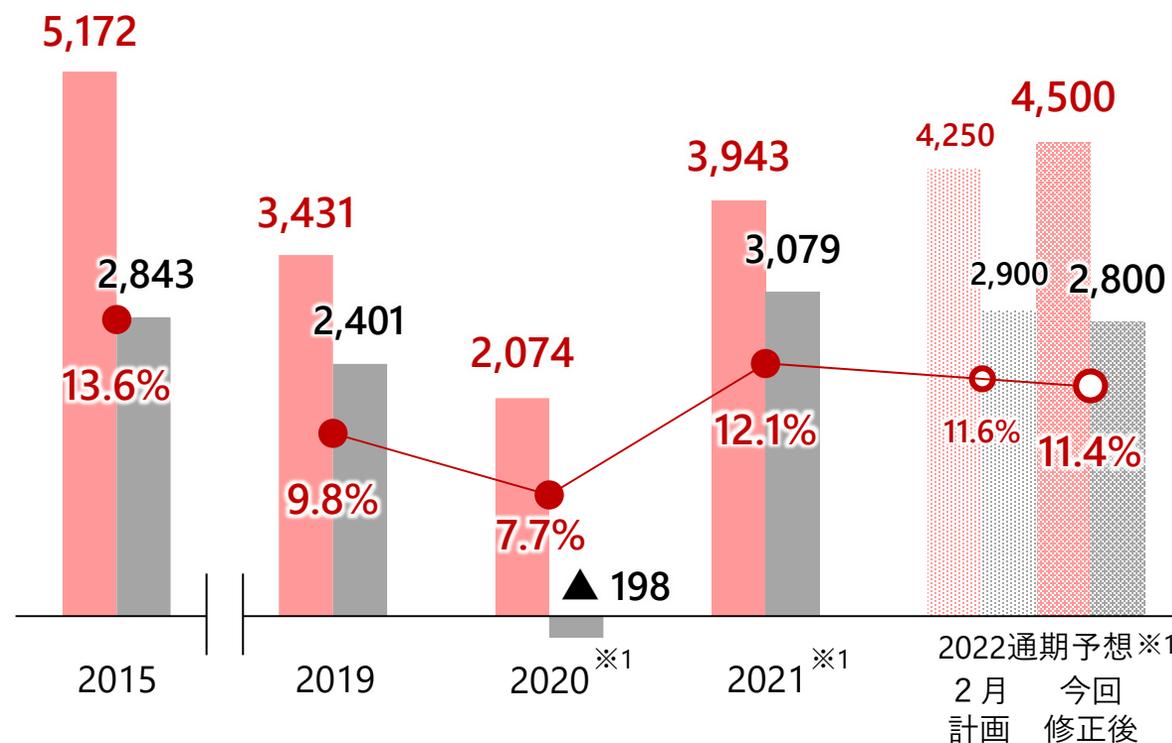
IFRS基準

※1 米国建築資材事業、防振ゴム事業、化成品ソリューション事業を除く「継続事業」の金額を表示しております。

※2 「親会社の所有者に帰属する当期利益又は損失」を記載しております。

調整後営業利益／継続事業からの当期利益

■ 調整後営業利益[億円] ■ 継続事業からの当期利益[億円]^{※2}
— 調整後営業利益率[%]



日本会計基準

IFRS基準

2022年通期 連結業績予想（今回修正後）

（単位：億円）

	2021年 通期実績	2022年 通期予想 ('22/2/15発表)	2022年 通期予想 (今回修正後)	前回予想比 増減 (%)	前年比 増減 (%)
売上収益	32,461	36,500	39,500	+8	+22
調整後営業利益	3,943	4,250	4,500	+6	+14
利益率	12.1%	11.6%	11.4%	△ 0.3pp	△ 0.8pp
親会社の所有者に 帰属する当期利益	3,940	2,800	2,500	△ 11	△ 37
-うち継続事業	3,079	2,900	2,800	△ 3	△ 9
-うち非継続事業	862	△ 100	△ 300	-	-
ROIC	9.0%	9.2%	9.3%	+0.1pp	+0.3pp
ROE	12.9%	11.3%	10.8%	△ 0.5pp	△ 2.1pp
1株当たり配当金	170円	170円	170円		

※ 売上収益、調整後営業利益、ROIC及びROEは、「継続事業」のみの金額・数値を表示しております。

2022年通期 事業環境見通し



為替

- 為替前提：下期 1USD = 125円、1EUR = 128円
(参考) 2月計画為替前提：1USD = 112円、1EUR = 127円



原材料 / エネルギー

- 原材料：天然ゴムは緩やかな値上がり基調、原油は引き続き高値圏での推移を想定。
- エネルギー：工場におけるエネルギー費の上昇は、下期に一段と厳しくなることを想定。



タイヤ需要 (PSR/TBR)

- 新車用：半導体不足影響は緩やかに改善も、19年対比では低水準に留まる。
- 市販用：日・米・欧は通期で対前年需要増を想定。アジアは中国の需要減少影響大。下期もプレミアムタイヤ需要がより強く推移する見通し。

為替動向 通期見通し

	2021年	2022年		
		上期	下期	通期
USD	110	123	125	124
EUR	130	134	128	131

通期 タイヤ需要見通し (本数 対前年)

※1 タイ・インドネシア・中国の3ヶ国計

当社推定値	PS/LT (乗用車/ライトトラック用)				TB (トラック・バス用)			
	OE(新車用)		REP(市販用)		OE(新車用)		REP(市販用)	
	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年	対前年	対19年
日本	105%	84%	103%	99%	98%	100%	102%	98%
北米	112%	91%	104%	107%	108%	93%	103%	126%
欧州	95%	72%	108%	107%	109%	108%	102%	108%
アジア※1	104%	101%	91%	82%	76%	80%	88%	76%

2022年通期 タイヤ販売本数予想：対前年



PSR/LTR

	対前年
グローバル	101~105%
OE (新車用)	
グローバル	106~110%
日本	106~110%
北米	106~110%
欧州	101~105%
中国・アジア・大洋州	101~105%

REP (市販用)

グローバル	101~105%
日本	101~105%
北米	106~110%
欧州	106~110%
中国・アジア・大洋州	106~110%



TBR

	対前年
グローバル	101~105%
OE (新車用)	
グローバル	100%
日本	100%
北米	90~94%
欧州	116~120%
中国・アジア・大洋州	100%

REP (市販用)

グローバル	101~105%
日本	101~105%
北米	111~115%
欧州	106~110%
中国・アジア・大洋州	100%



ORR

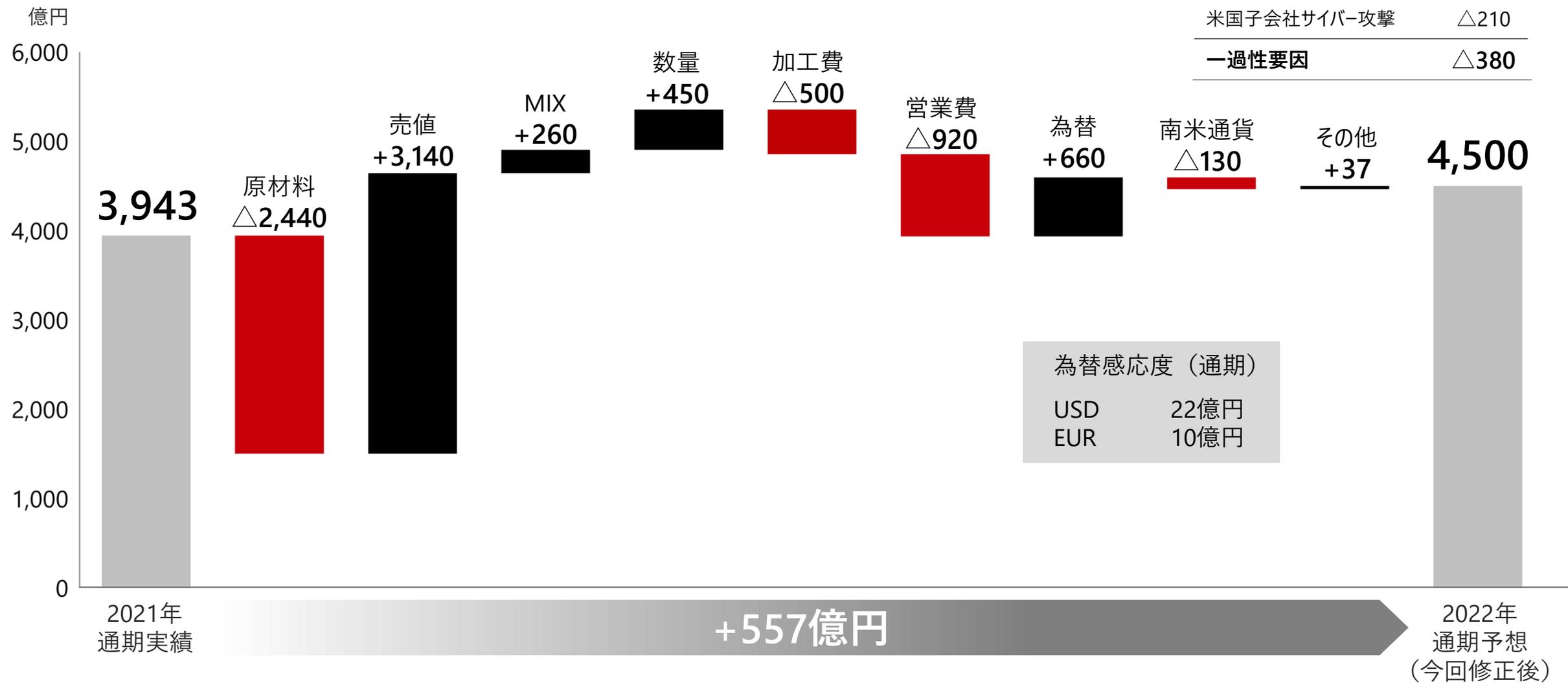
	対前年
超大型(REPのみ)	106~110%
大型	111~115%
OE	131~135%
REP	101~105%
中小型	106~110%
OE	106~110%
REP	106~110%



PSR 18インチ以上

グローバル	111~115%
REP	116~120%

2022年通期 調整後営業利益増減要因予想：前年差



2022年通期 セグメント別業績予想（今回修正後）

（単位：億円）

	2021年 通期実績	2022年 通期予想 (今回修正後)	前年比増減 (%)
連結 売上収益	32,461	39,500	+22
日本	8,730	10,000	+15
米州	14,546	18,950	+30
欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	6,939	8,000	+15
中国・アジア・大洋州	3,869	4,850	+25
連結 調整後営業利益	3,943	4,500	+14
日本	1,170	1,140	△ 3
米州	1,906	2,580	+35
欧州・ロシア・中近東・インド・アフリカ	421	620	+47
中国・アジア・大洋州	420	430	+2



免責条項

本資料に掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などのうち歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報からの判断に基づき作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。そのため、今後の当社を取り巻く経済環境・事業環境などの変化により、実際の業績が掲載されている業績予想、計画、戦略、目標などと大きく異なる可能性があります。従いまして、投資に関する決定はご自身のご判断においてなさるようお願いいたします。